

NRU 国労せんだい

NO. 2496
2007年6月6日
発行責任者 太田博二
編集責任者 武田昌仙

◆07春闘総括会議を開催◆ 経験・報告を職場に広げよう



挨拶する太田委員長

5月19日、地方本部は各支部・分会の代表者を招集し、07春闘の中間総括会議をこころ会館において開催した。

07春闘を様々な角度から検証し、また各支部や分会の取組みを報告し、学び合いながら今後の取組みの意思統一を図った。

会議は橋本副委員長の開会の挨拶と司会で始まり、主催者を代表して太田委員長は以下の挨拶を述べた。

○委員長の挨拶

①07年春闘は、格差是正が焦点。極めて小さなものではあったが、意識性は見られたし、とっかかりは作れたのではないか。

②格差の元凶には規制緩和がある。事故や社会問題が取り上げられ、規制緩和の流れを戻す議論も生まれている。今後とも強めていかなければならない。

③地本の春闘は、行動と職場

の活性化が課題。行動は一発のものであるが、労働条件改善、職場運動の活性化は難しい。本日の代表者会議の報告、経験を持ち帰り地道な活動を積み上げていこう。

本部から情勢報告

続いて国労本部・佐藤勝雄委員長より情勢報告を頂いた。

○佐藤委員長報告

①全国大会、拡大中央委員会
で決定した方針に基づいて、20年目の解決を追求してきたが年度末までの解決が果たせなかった。

②民主党北海道議連に続き、九州対策委員会が確認された。今後は民主党全体で1047名問題の早期解決に向けた動きになるよう努力したい。

③「四党合意」以降の不団結を克服し関係修復が図られた。ILOへ四者・四団体で要請へ、裁判でも連携していくこ

とにしている。

④連合を含む労組に趣旨を理
解して頂いている。「カンパ
箱」「アップール」運動の前
進等、裾野は広がっている。

⑤関係省庁の壁が厚い、かた
くなな姿勢をとり続け「根負
け」に追い込みあきらめさせ
る考え、表面は膠着状態だが
水面下ではせめぎあいが続い
ている。



本部佐藤委員長

⑥政治、
ILO、
裁判、大
衆行動に
ついて全
国大会まで総力を挙げ闘う。

⑦当面、第1次ゾーンとして
5月21日から国交省への要
請行動を展開する。関係省庁
の壁に風穴を空け早期解決に
結び付けたい。

○各分会からの報告【要旨】

郡山駅連合 佐藤書記長

①春闘期の取組み。執行委員
会で分会春闘方針を決定し、
組合員オルグ、現場長への対
話を意思統一し、話し合いが
実施された。職場全体の要望
が作業ダイヤに反映。情報の
発行と掲示板の活用にも他労組
からの反響も。

②組織拡大の取組み。3月1
3日小椋さん復帰、4月9日
仙台駅に配転された保志さん
が加入。関係者の努力に感謝

したい。合理化は人も組合も
選ばない、を再確認。

③4分会交流を5月12日に
開催した。年1回ではなく通
年に渡って開催したい。6月
24日には分会家族交流会を
予定。交流を深め団結強化へ。
小牛田運輸区 後藤副分会長

①春闘要求を集約するため2
月13～14日に集会を開催
(仕事・安全総点検、職場環
境問題、最近頭にきているこ
と、統一地方選 一人一要求)
し、3月28日に班長会議を。
②現場長との話し合い行動を
3月28日に行った。一定時
間で改善要望。要求書の受取
りは拒否。

③総括と課題。1月26日の
旗開きで決起、春闘と統一地
方選の流れを意思統一。職種
毎の課題(合理化・安全問題)
を全体・班集会で共有化(要
求化)。職場の身近な問題を
取り上げる国労の姿勢を大切
にしたい。

仙総車体分会 小松分会長

①組合間差別をなくする取組
み。3月2日、会社施設の会
議室で分会集会を開催。これ
まで東労組のみ使用してきた
会社施設を国労も使用。組合
旗使用不可などしほりもある

が、とにかく分会集会を開催
した意義は大きい。

支部としては、春闘総決起
集会とアスベスト対策学習会
で申し込みをしたが、組合旗
や腕章等の使用、部外者の立
入り不可で実現ならず。しか
し支部のソフトボール大会開
催では3日間の使用を認めた。

また6月には東日本書記長
を招いての集会も開催予定。
掲示板も見やすい場所への
変更を要求し、改善されるな
ど他労組へのアピールに。

貨物宮城 阿部分会長

①春闘の取組み。1月に貨物
協議会の提起を受け、同月の
執行委員会でも議題としてスタ
ト。以降毎回、執行委員会
は具体的な行動の提起と実践
に向けての取組みを議論し確
認。要求実現に向け全体集
会で意思統一を図ってきた。

②具体的取組み。5項目要求
の実現に向け、貨物独自の集
会はもとより、中央・地本の
集会参加、職場門前組合旗立
て、チラシ配布、社宅へのチ
ラシ配布、社長宛の全組合員
による要請ハガキ、要請FA
X、ジャンボハガキなどの行
動や取組み。5項目要求では
組合員31名で他労組・助役

を含め177名分の署名を集約。

③会社の回答。回答指定日を過ぎ、結果として8年連続ベアゼロを通告。社員犠牲の姿勢をあらためて暴露。旅客の仲間とともに抗議集会を開催。

④中間総括。様々取組みを展開したが、中々結果が出ない状況。格差がつきすぎあきらめにといい声もある。他の分会と交流を行い実態の突き合わせが必要では。最近会社はストの発言が多い。与える影響が大きく警戒しているのか、やはりストで闘おうなど。今後夏期手当獲得の闘いとなる。

○活発な発言が続く
会議では4氏からの報告を受け全体討論を行った。仙台電力立山分会長、郡山工場支部橋本委員長、仙台駅連野書記長、仙台建築佐藤分会長、仙総支部原子書記長からそれぞれ機関としての取組みが報告され、最後に大沼書記長がまとめた。

○本日の代表者会議の目的は、職場の春闘を集約すること。

その報告、経験を皆さんが支部、分会に持ち帰り総括してもらおうことが重要な目的。先進的な取組みに学ぶことは重要だが、地方本部が求め

ていることは現場長との対話活動を全体が取り組むこと、全体ができるようにすることである。

地方本部の役割は、分会等

地方本部まとめ


での取組みを実行しやすく環境整備をすることである。

○労働条件の改善については、仕事の悩みや問題がほとんど。

国労は国労の仲間だけが働きやすくなればよいと運動しているわけではない。全社員を視野に入れた現場長との対

お詫ご訂正

国労せんだい 495号で1面上部囲み内で、長野チームが2連覇・となっていたが、正しくは東京Bチームが優勝です。ここに訂正しお詫び致します。



話を図るということであり、広がりを作られてきている。「社員有志」が不十分なのか、

秋田地本・山形県支部交流会



久し振りに仲間と再会

5月12日、新庄市内において、国労秋田地本支部と国労山形県支部との交流会が開催され

た。同支部では分割民営化前後に秋田から強制配転をされた組合員が多く存在し、今なお転勤希望地を秋田に求めているものも少なくない。こうした状況を受け、

秋田と場所を変え会を重ねることに参加者が多くなっており喜ばしい。この間、職場ごとに組合員が分断され、交流が少なくなる中で

秋田への転勤希望が叶うまで、共に支えあい励まし合おうと始まったこの取り組みは、今回で3回目。会是新庄地区協議会若野議長らの司会で開かれ、主催者代表を代表して挨拶に立った山形

事故が多発している。以前は危険な箇所があれば系統を超えても『一声』掛けて、未然に事故を防いできた。そうした意味でも国労の存在意義は大きい。要求実現に向けて今後も取り組みを強化していく」と挨拶。秋田地本から瀬下委員長、

今後も分会で議論してほしい。○貨物の厳しい経営環境、旅客会社との格差が取り上げられた。格差は貨物、旅客の係だけではなく社会的な問題になっている。環境、条件の違いの中でも共通する課題はある。貨物の夏季手当はこれから始まる、全体で支えていこう。

宮城県支部主催

5月21日、こくろう会館において仙台駅連合分会所属の保志正義さんの国労加入歓迎会が開催された。

既に組織部速報で周知されているが、保志さんは郡山宅

保志さん国労加入歓迎会

配オペレーションから仙台駅に配転となったが、そのとき

所属していた組合の対応に失望して組織を脱退。歓迎会の中で保志さんは「組合員の遠隔地への転勤という重大な問題に対し、組合は横柄な態度に終始し、失望と怒りを禁じえなかった。国労の仲間と共に頑張りたい」と決意を述べた。

当日は郡山駅連合分会からも多くの仲間が激励に駆けつけ、過日復帰した小椋さんも元気な顔を見せていた。



仙田地本から橋本副委員長も参加、久し振りに仲間と再会した組合員は大いに語り合い、会は盛況のうち幕を閉じた。

